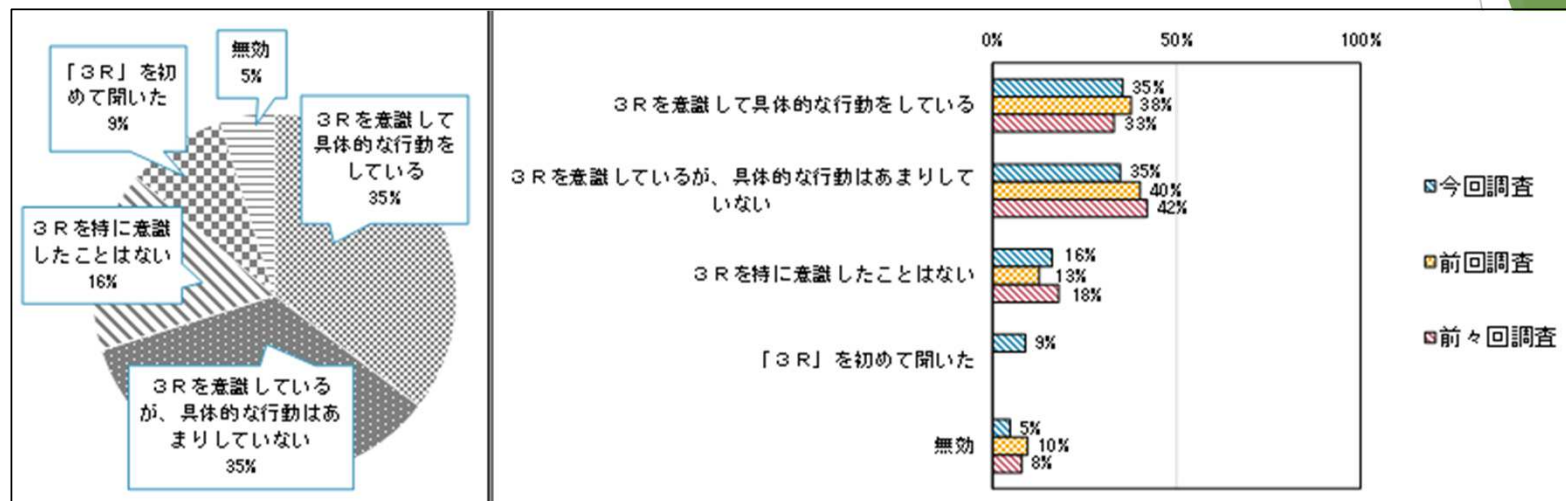


廃棄物に関する意識調査等を踏まえた 現状分析と計画見直しの方向性 (第5次青森県循環型社会形成推進計画素案)

令和7年11月19日
青森県環境エネルギー一部資源循環推進課

1 県民意識調査結果（R6調査）

（1）廃棄物の3 Rへの意識・行動（調査報告 P 5）



○「3 Rを意識して具体的な行動」… 35%
一方で

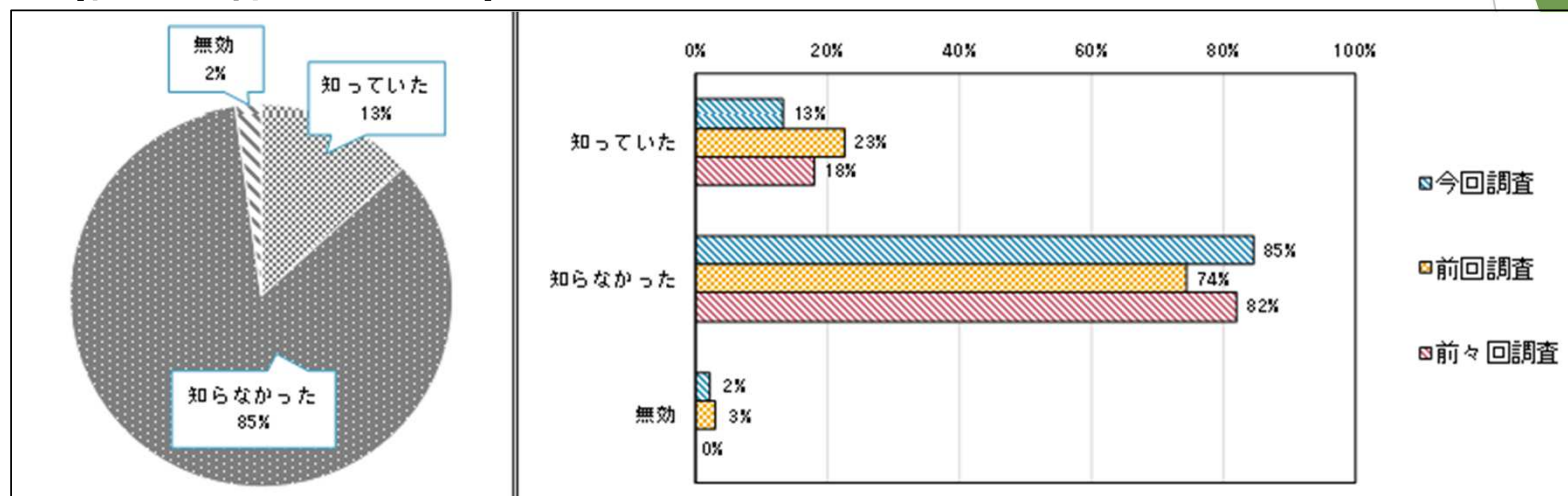
○「3 Rを意識しているが、具体的な行動はあまりない」… 35%

○「3 Rを特に意識したことはない」… 16%

<課題・論点> 3 Rの意識向上、具体的な行動化のため、一層の普及啓発が必要

1 県民意識調査結果（R6調査）

（2）1人1日当たりのごみ排出量及びリサイクル率の認知度 （調査報告 P 6）



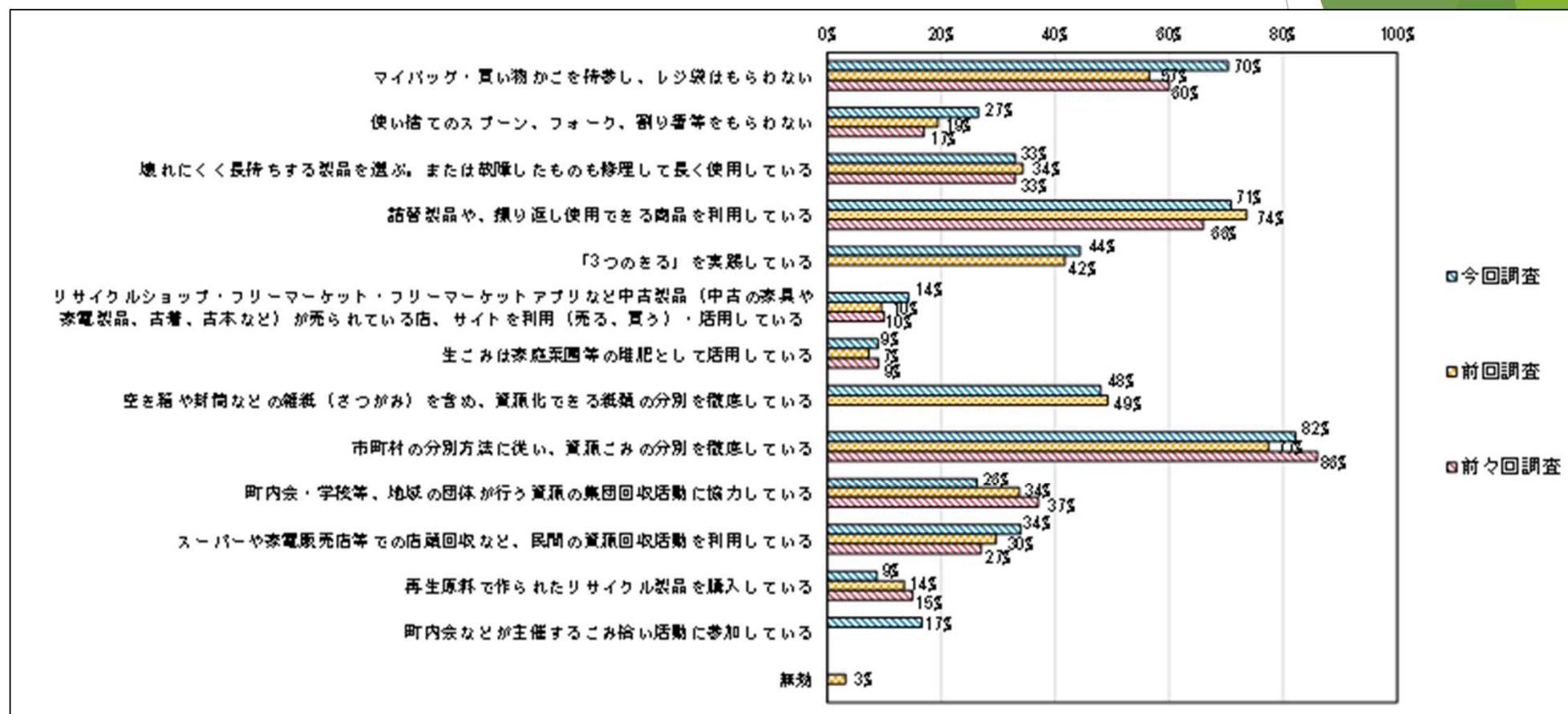
○「知っていた」 … 13% 前回調査から10ポイント減

○「知らなかった」 … 85% 前回調査から11ポイント増

＜課題・論点＞ 3R意識・関心の希薄化が懸念。取組の拡充が必要

1 県民意識調査結果（R6調査）

（3）3 R推進等、環境へ配慮するために意識していることや取り組んでいること（全体）（調査報告P 7）



1 県民意識調査結果（R6調査）

（3）3 R推進等、環境へ配慮するために意識していることや取り組んでいること（全体）（調査報告 P 7）

○「マイバッグ・買い物かごを持参し、レジ袋はもらわない」
… 70% 前回調査から13ポイント増

○「使い捨てスプーン、フォーク、割り箸等をもらわない」
… 27% 前回調査から8ポイント増

＜課題・論点＞ → プラスチックに関する3 R意識は向上する傾向

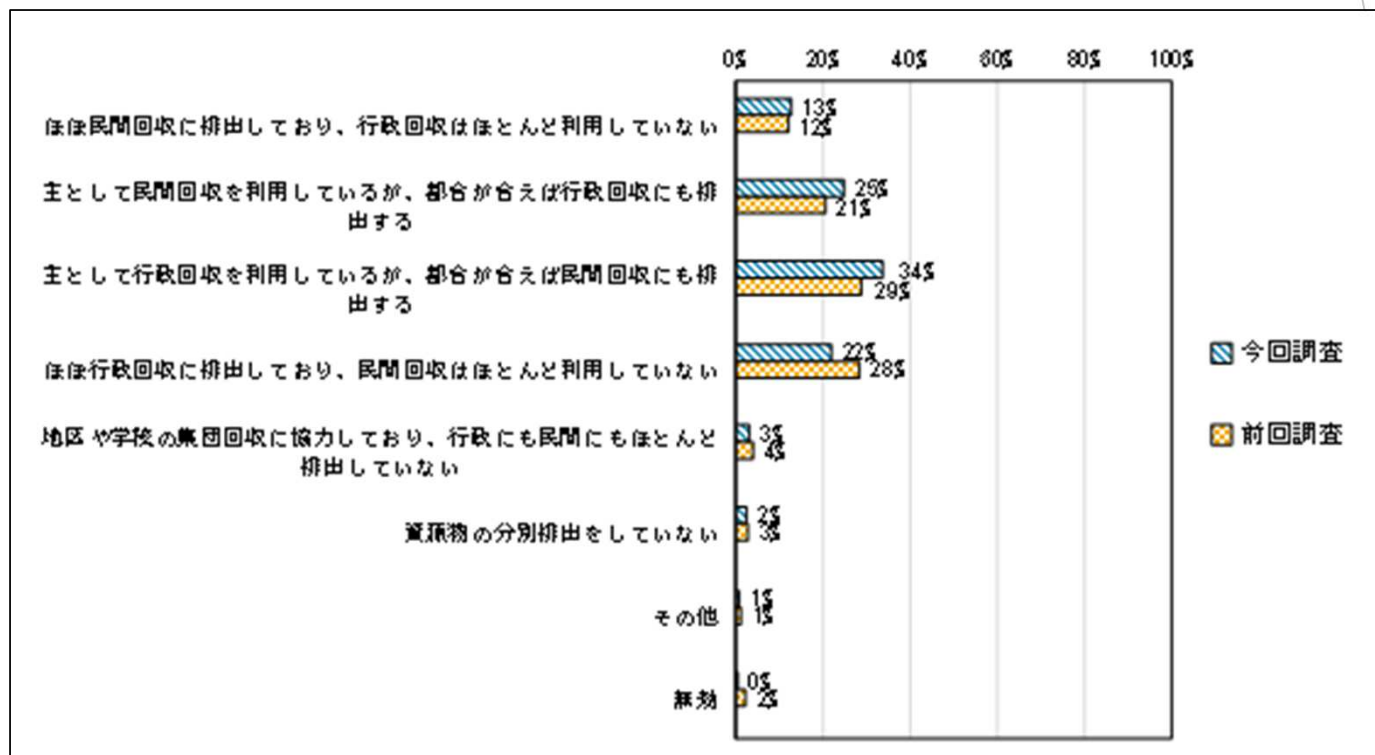
○「「3つのきる」を実践」
… 44% 前回調査から2ポイント増

○「生ごみは家庭菜園等の堆肥として活用」
… 9% 前々回調査と同値

＜課題・論点＞ 「3つのきる」は5割弱実践で推移も、食品ロスのリサイクルは低調

1 県民意識調査結果（R6調査）

（４）資源回収ボックス等の民間回収の利用頻度（調査報告 P 14）



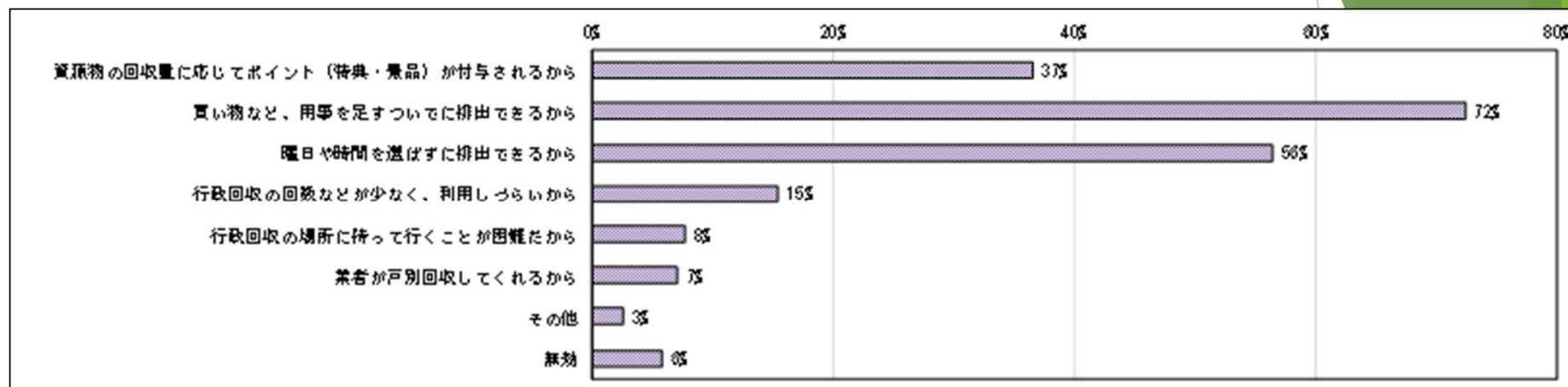
○「ほぼ行政回収に排出、民間回収はほぼ利用しない」… 22%

○「ほぼ民間回収に排出～都合が合えば民間回収」計… 72%

＜課題・論点＞ リサイクルの上で民間回収は不可欠

1 県民意識調査結果（R6調査）

（5）民間回収を主として利用している理由（調査報告 P 15）



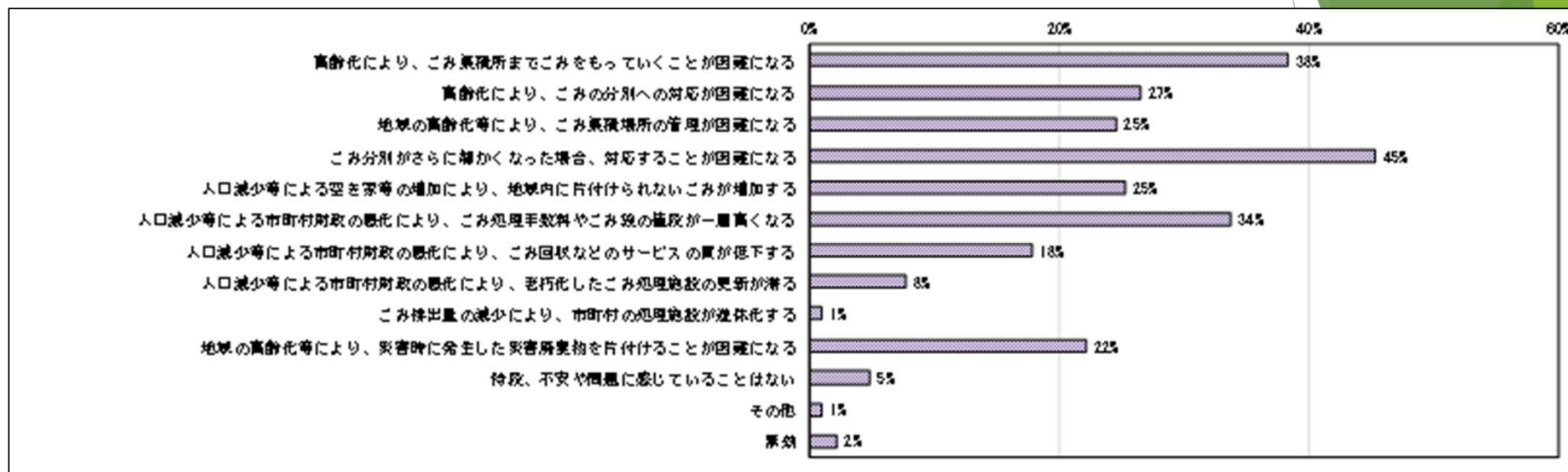
○「買い物など、用事ついでに排出可」… 72%

○「曜日や時間を選ばずに排出可」… 56%

＜課題・論点＞ 民間回収は、排出時間の制約がほぼない

1 県民意識調査結果（R6調査）

（6）今後のごみ処理における不安や問題点（調査報告 P 2 8）



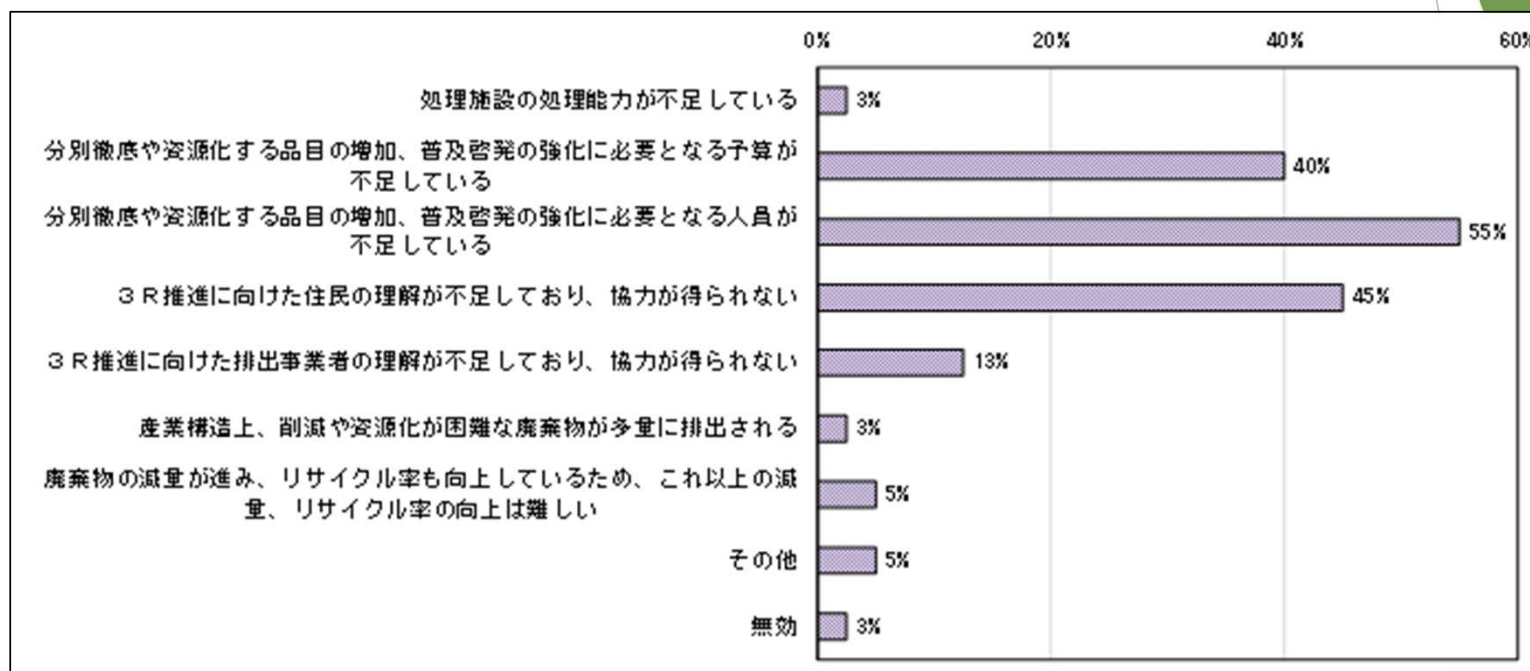
○「高齢化により、ごみ集積所までのごみ運搬が困難に」… 38%

○「さらなるごみ分別細分化により、対応が困難に」… 45%

＜課題・論点＞ 直接・間接に高齢化に付随する問題が顕在化

2 市町村アンケート調査結果（R6調査）

（1）廃棄物の減量化及びリサイクル率に係る目標達成に向けた課題（調査報告 P 5 9）



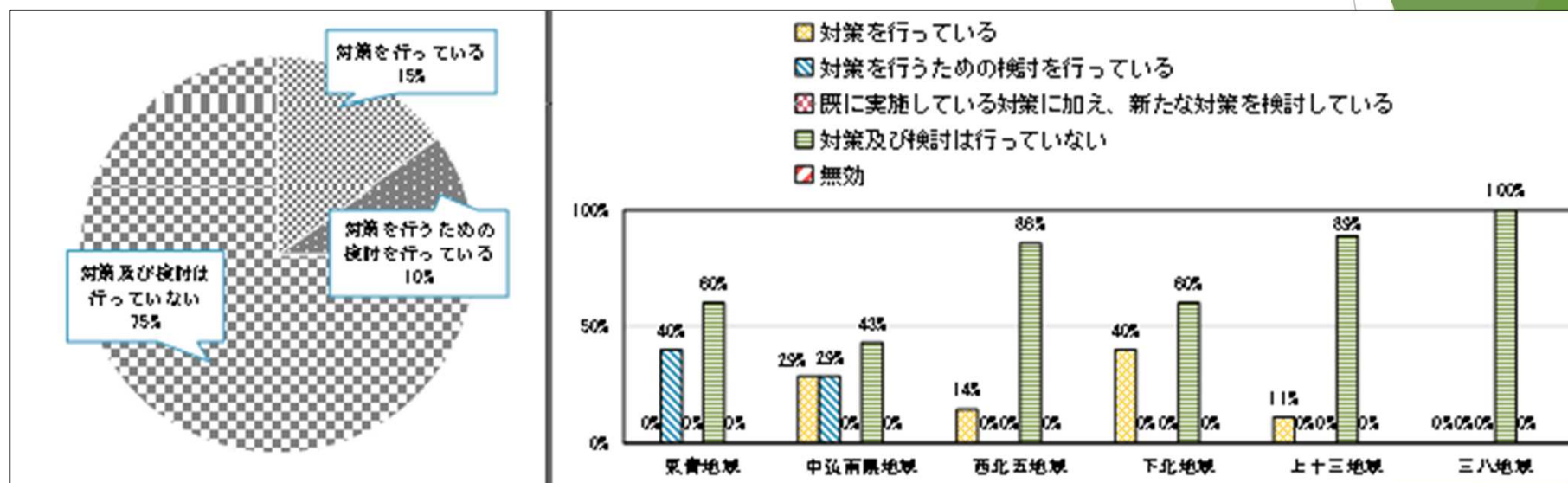
分別徹底や資源化する品目の増加、普及啓発の強化に当たって

○予算が不足… 40% ○人員が不足… 55%

<課題・論点> 3R推進に当たって、市町村の予算・人員が不足

2 市町村アンケート調査結果（R6調査）

（2）廃棄物分野における高齢化に伴う対策・検討 （調査報告 P 8 5）



- 「対策を行っている」… 1 5 %
- 「対策を行うため検討中」… 1 0 %
- 「対策及び検討は行っていない」… 7 5 %

＜課題・論点＞ 大半の市町村では、高齢化に伴う対策・検討はこれから

3 市町村アンケート調査結果（R7調査）

（1）高齢化

- 地域社会の高齢化に伴い、共助機能が脆弱に
- 町会活動、集団回収活動が停滞傾向
- 高齢者を対象としたごみ出し支援（個別回収）

＜課題・論点＞ 地域社会の高齢化に対応した施策が必要

（2）外国人による不適切排出等

- 外国人のごみ不適切排出に対する指導が必要
- 外国人による正しいごみ分別がされないケースが少しずつ増加

＜課題・論点＞ 外国人に対する適正分別・3R推進に関する普及啓発が必要

3 市町村アンケート調査結果（R7調査）

（3）不用品回収業者への対応

- 不用品回収業者への対応が必要
 - 無許可収集運搬業者が廃品回収としてチラシをポスティング
- ＜課題・論点＞ 無許可収集運搬業者に対する指導が必要**

（4）リチウムイオン電池

- 分別・回収・処理の方法について苦慮
 - 収集方法について、構成市町村間での意見の調整が難航
 - 処理業者がみつからない
 - 海外製や膨張したものはJBRCも回収せず、処分先がない。
 - 電気屋等で回収してもらうよう指示
 - 不燃ごみに混入、処理過程での発火が頻繁
- ＜課題・論点＞ リチウムイオン電池の適正処理に向けた普及啓発と処理ルート整理が必要**

4 まとめ（課題・論点、施策方向性等）

項 目		課題・論点	第5次計画の 施策の方向性	県の役割
1	(1) 廃棄物の3Rへの意識・行動	3Rの意識向上、具体的な行動化のため、一層の普及啓発が必要	重点取組1 「行政・民間事業者等各 主体の連携強化による3 R+の推進」	○市町村、事業者、県民への幅広い支援とパートナーシップの促進 ○3R推進地域連携会議の設置、開催 ○市町村、事業者、県民との連携・協働によるリサイクル・循環経済 システムの構築
	(2) 1人1日当たりのごみ排出量及びリサイクル率の 認知度	3R意識・関心の希薄化が懸念。取組の拡充 が必要		
	(3) 3R推進等、環境へ配慮するために意識している ことや取り組んでいること	プラスチックに関する3R意識は向上する傾 向	重点取組3 「プラスチック資源循環 の推進」	○プラスチックの回収・再生利用促進の取組に関する情報提供 ○陸域から海域へのプラスチック流出防止に向けた普及啓発 ○再資源化促進のための先進事例等に関する市町村への情報提供
		「3つのきる」は5割弱実践で推移も、食品 ロスのリサイクルは低調	重点取組4 「食品ロス削減対策の推 進」	
	(4) 資源回収ボックス等の民間回収の利用頻度	リサイクルの上で民間回収は不可欠	重点取組2 「市町村が抱える地域課 題の解決」	○地域特有の廃棄物処理に悩む市町村への支援 ○リチウムイオン電池処理に関する市町村との課題共有、効果的方法 の検討 ○地域社会での支え合い、外国人に対応した分別周知など、効果的な 方法を検討
	(5) 民間回収を主として利用している理由	民間回収は、排出時間の制約がほぼない		
	(6) 今後のごみ処理における不安や問題点	直接・間接に高齢化に付随する問題が顕在化		
	(1) 廃棄物の減量化及びリサイクル率に係る目標達成 に向けた課題	3R推進に当たって、市町村の予算・人員が 不足		
		大半の市町村では、高齢化に伴う対策・検討 はこれから		
	(2) 廃棄物分野における高齢化に伴う対策・検討			
	(1) 高齢化	地域社会の高齢化に対応した施策が必要		
		外国人に対する適正分別・3R推進に関する 普及啓発が必要		
		無許可収集運搬業者に対する指導が必要		
		リチウムイオン電池の適正処理に向けた普及 啓発と処理ルート整理が必要		

5 第4次計画策定後の主な国動向・県の施策の方向性等

年 月		国の動向	県内の現状課題	第5次計画の 施策の方向性	県の役割
令和3年	6月	「小売業に属する事業を行う者の容器包装の使用の合理化による容器包装廃棄物の排出の抑制の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令の一部を改正する省令」の施行（プラスチック製買物袋有料化制度の実施）	○レジ袋削減協定（平成20年度）から継続実施	重点取組3 「プラスチック資源循環の推進」	○プラスチックの回収・再生利用促進の取組に関する情報提供 ○陸域から海域へのプラスチック流出防止に向けた普及啓発 ○再資源化促進のための先進事例等に関する市町村への情報提供
令和4年	4月	プラスチック資源循環促進法施行	○製品プラスチックの一括回収は、2市町（五所川原市、鶴田町）で実施中		
	10月	食品ロス削減月間に合わせて「てまえどり」の呼びかけ	○「3つのきる」は5割弱実践で推移も、食品ロスのリサイクルは低調	重点取組4 「食品ロス削減対策の推進」	○消費者教育等と連携し、食品ロス削減の重要性に関する普及啓発 ○食品ロス削減等に取り組む事業者を「あおり食べきり推進オフィス・ショップ」として認定 ○未利用食品を提供するための活動の在り方を検討
令和5年	12月	食品ロス削減に向けた施策パッケージ公表			
令和6年	8月	第5次循環型社会形成推進基本計画閣議決定	○第5次青森県循環型社会形成推進計画を策定中	重点取組1 「行政・民間事業者等各主体の連携強化による3R+の推進」	○市町村、事業者、県民への幅広い支援とパートナーシップの促進 ○3R推進地域連携会議の設置、開催 ○市町村、事業者、県民との連携・協働によるリサイクル・循環経済システムの構築
令和7年	2月	再資源化事業等高度化法一部施行	○3Rの意識向上、具体的な行動化のため、一層の普及啓発が必要 ○3R意識・関心の希薄化が懸念。取組の拡充が必要 ○プラスチックに関する3R意識は向上する傾向		
令和7年	3月	食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針変更	○「3つのきる」は5割弱実践で推移も、食品ロスのリサイクルは低調	重点取組4 「食品ロス削減対策の推進」	○消費者教育等と連携し、食品ロス削減の重要性に関する普及啓発 ○食品ロス削減等に取り組む事業者を「あおり食べきり推進オフィス・ショップ」として認定 ○未利用食品を提供するための活動の在り方を検討

6 重点取組の検討

(1) 重点取組 1

<課題・論点>

- 3 Rの意識向上、具体的な行動化のため、一層の普及啓発が必要【1(1)】
- 3 R意識・関心が希薄化【1(2)】
- 県民・事業者の3 R意識・関心を高めるため、3 Rの取組の拡張が必要。

<対応策>

- 地域における循環経済の在り方を踏まえた3 R +
 - ・ 事業・活動形態の変更（枯渇性資源由来→再生可能資源由来）
 - ・ 製品の適切な長期利用
 - ・ リユースやリペア、アップサイクル
 - ・ 県内経済の活性化や県内産業の振興に資する事業形態
- 県民・事業者の協力を引き出しやすくする環境整備



重点取組 1 「行政・民間事業者等各主体の連携強化による3 R +の推進」

6 重点取組の検討

(2) 重点取組 2

<課題・論点>

- 集団回収：高齢化により町内会活動が停滞
 - 民間回収：排出時間の制約ほぼなし【1(5)】
-
- 集団回収が停滞し民間回収利用が活発
 - リサイクルの上で民間回収は不可欠【1(4)】
- 行政回収を担う市町村
 - ・直接・間接に高齢化に付随する問題が顕在化【1(6)】
 - ・高齢化に伴う対策・検討はこれから【2(2)】
 - ・市町村の問題は山積【3(1)～(4)】・3 R 推進の予算・人員が不足【2(1)】

<対応策>

- 民間回収等の積極的利用により、予算・人員を節約、3 R 施策・課題解決に振り分け
- 県が、市町村地域課題の把握・解決に向けたごみ処理体制構築支援

重点取組 2 「市町村が抱える地域課題の解決」

6 重点取組の検討

(3) 重点取組 3

<課題・論点>

- プラスチックに関する3R意識は向上する傾向【1(3)】
- 令和8年度以降一部事務組合の広域化・集約化
- 製品プラスチックの一括回収取組市町村が一定数増加
- 再生プラスチックの集約拠点を複数整備（環境省）

<対応策>

- 循環経済への移行に寄与するため、市町村のプラスチック資源循環の強化



重点取組 3 「プラスチック資源循環の推進」

6 重点取組の検討

(4) 重点取組 4

<課題・論点>

- 「3つのきる」は5割弱の実践で推移【1(3)】
- 食品ロスのリサイクルは低調【1(3)】
- 本県の食品ロス（R5年度）：45,000 t
- 大量の食品ロスが発生し、そのリサイクルは低調

<対応策>

- 食品ロスを発生させない取組が必要



重点取組 4 「食品ロス削減対策の推進」

7 重点取組まとめ

- 1 「行政・民間事業者等各主体の連携強化による3R+の推進」
- 2 「市町村が抱える地域課題の解決」
- 3 「プラスチック資源循環の推進」
- 4 「食品ロス削減対策の推進」



重点取組1～4を踏まえ、以下により循環型社会の形成推進を図る。

- 次の考え方や関係性の構築により、ライフスタイル・ビジネススタイルの転換、3R+による価値の最大化や循環経済への移行を目指す。
 - ・ 「もったいない」の考え方
 - ・ 事業者への助言・指導、事業者との連携（廃棄物の排出抑制、製品の長期間使用、再生可能製品・リサイクル製品の普及）
- 循環経済への移行により、ネット・ゼロ（温室効果ガス排出実質ゼロ）、ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現を目指す。
- これらの総合的な効果として、地域経済の活性化や資源の安定供給につなげる。

8 循環型社会のイメージ

以上の取組により本県が目指す循環型社会のイメージは次のとおり。

- 1 「もったいない」の考え方に即したライフスタイル・ビジネススタイルへの転換
- 2 循環経済への移行による持続可能な地域づくり
- 3 環境に配慮した事業活動とリサイクル製品の普及拡大
- 4 自然との共生と適正な物質循環の確保